

全国版のパンフレットにのりました

奄美市立
住用小学校



生物の保護活動 第75回愛鳥週間 令和3年度野生生物保護功労者表彰

野生生物保護に関し顕著な功績を収めた団体として表彰を受けた奄美市立住用小学校。15年前から奄美大島固有亜種リュウキュウアユの保護活動を続けてきた。児童たちが取り組む様子や活動内容を伺った。



自然の素晴らしさを再発見 奄美大島のリュウキュウアユ保護活動

奄美大島の中央部に位置する鹿児島県奄美市住用町。役勝川と住用川が合流する河口付近は日本で2番目の面積を有するマングローブ原生林が広がる。奄美市立住用小学校はそんな豊かな自然に囲まれている。



毎年、梅雨明けの時期に行うリュウキュウアユの観察学習。まだ冷たい川に入り、シュノーケルを付けて観察する

同校では15年ほど前、奄美大島に生息する絶滅危惧種リュウキュウアユの数が激減したとの情報をきっかけに保護活動に取り組み始め、鹿児島大学をはじめ、奄美市役所住用総合支所などの協力のもと、「リュウキュウアユの生態等(座学)」「視察学習(体験活動)」「産卵地の整地(体験活動)」を継続してきた。この取り組みが評価され、第75回愛鳥週間令和3年度野生生物保護功労者表彰で文部科学大臣賞を受賞。「これまでの卒業生や保護者、地域の方々のおかげで受賞できました。これからも良き伝統・文化として続けていきたい」と教頭の所崎陽先生は語る。

奄美大島・徳之島は、沖縄島北部・西表島とともに2021年7月に世界自然遺産として登録され、メディアでも注目されるようになった。すると当初は受賞に無関心だった児童たちも、自然の素晴らしさと受賞の意味合いに気づいたよう。地元のラジオ番組に全児童が出演したときには、リュウキュウアユの美しさや、棲み処としている川のこと、未来へ命を守り繋いでいきたい思いなど観察学習の様子を発表した。所崎先生は、「本校の全校児童は19名。日頃から、学年を超えた共同作業の中では責任感が芽生えたり、多くの気づきにもつながっています。今後も人と自然の関係を考え、より良い活動に取り組みたい」と語った。

自然を守り、自然とともに生きる住用小の取組に全国から関心がよせられています。